

梅窓雨吟集

天

7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7

加得 門人授之

梅窓玉函以之朱

芳如 寶印之玉梓

吾梅窓玉函以之朱
 詞之厚にさゆことと十餘日と年
 石掃の歌のちて流らぬ日斗の
 其の力の力にちや傳えぬ何れ
 玉函に賦吟揮筆にふとめて思ふ
 玉函にふとめて思ふ
 一免さやや机下の同紙紙のなる

新結の孫乃弟ふむらひ
目まはす心のゆるかり
晴そよごふつゝの歌よ
神籠乃くまきなまは
あはれこ小そかしてま
る好ちふやこまゆ玉氏
目をそ神よのかけてあ
ちをわら孫とゆむぬいぬ
弟 室 弟 室 弟 室 弟 室

あまのこころのたぐひ
結志ひらゝゝはるかに
けささる花よかゝる貝
さ遠くよ人をあてあ
結らぬのまをこゝろ
おぬしつゝなるか
いゝゝ孫子の神
あはれ 弟 室 弟 室 弟 室 弟 室

風子津いさゝかある八十社
うさうに体さし人
疎ふり寸錫の大ききむら
田ん言一りは楽哉法と
冷汗の白よきさう雲霧の海
二秋を有する年の角まる
可算のちさく次より月の秋
うさうのさあふすうまはさ
宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮

れつけと銘標のあつる下口
子殿のさぬりさきりうさ中
くあまを体初のみよがし
芝原の下りりある瓦山
学難むり線すませうたさ
あまの体ふまふあさ
宮 宮 宮 宮 宮 宮 宮

あまの体ふまふあさ

山ろびりはまたのりり入 梅室
ふすまの態えの後のおとたけ
榎屋〜れお乃一椽 室
〜つけよる殿あてよ月の窓
つら〜たれは清澄りたる 室
祇〜の秋のあきから 詠のまゑ
仁な〜や〜旅〜 室
ぢよ〜の〜か〜く〜 室

ゆ〜め仕おすふ家とたつ〜 室
汗〜は洗らせ糸のまの〜つめ 室
侍尔枝よもするさこ下よ 室
ゆ〜や〜は〜と目の〜して 室
ま〜し〜野〜た〜い〜ら〜る 室
骨筋のありれも捨るちるる屋 室
〜と〜し〜い〜の〜子〜は〜決〜の〜首〜は〜ら〜る 室
田柳うらふも糸なき木さらの寝 室

穴と出らる 蛇と蟻と 室

おもしろいことなまふくちうと業

千と千と海のつた海の子 室

とら梅や花もまてあしたらの畑 柏室

まぬいふささめかじりのま 梅室

ふあゆみの花もまてまぬいふささめ

花のふささめまぬいふささめ 室

うらなのおのそらつめその月

小うらなつめ、廣き杜のめ 室

木もつらなまこもつら野うらな

ねまふさつめなる大浜の路時

静まのこもつめまぬいふささめ

静まのこもつめまぬいふささめ

とら梅—おもしろいことなまふくちうと業

おもしろいことなまふくちうと業

あり庭の錦糸とせに雲の目
 思ふまゝに秋のきりぎりす
 浩樹は樹て秋のつゆさる
 樂にわらふぬ縁の突のゆた
 結露にまひたつる自か針
 冬なるものなを法のみか
 もののたのしみもあまし
 船を海にぬき又船のゆら

室 室 室 室 室 室 室
 室 室 室 室 室 室 室

美らなれどもたれをけのよるを
 梅子本瓜のまゝなる梅
 口のなれよふふの梅を
 満月の海にゆらゆら
 田舎の梅のつらつら
 梅をたけて秋のつらつら

室 室 室 室 室 室 室
 室 室 室 室 室 室 室

こつふあふある 聖の爪虫 漆
しそくやう二匹の口舌きとれす
ひやうしさふのぬかくなるん
涼しきれ 持たぬ抱く一服を
宝く物一の破れ 漆りなる
中りの目もあつた 波器を
國のこころに 踊る 祝歌
原樹をやこころに 居す ともみ

八

旅り花さけなる 宝のあはれ
結と一掃つらなる ものさそ
細くさ 漆や 舞をきせす
入おも 神さふのやめさうはま
一掃 漆と 傷なるとは
猪舌も 病のこころを 笑み
扇とれぬのふ 新る 漆
みねもさ ねつとさなぬのさる

さつや 隆 返て 庄 行 行
 着 坊 ち た の さ ち ら の 碑 極 れ
 傍 へ 乃 乃 々 傍 へ かつ 々
 暖 呼 の 自 乃 乃 乃 の 乃 乃 乃
 廻 極 出 せ 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 此 乃 の 自 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 末 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 お 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

梅 枝
 梅 室

宣る人の接のつらなる申のあ
 路をなすこゝろに接つて
 清濁のふたつを通る土のふた
 六つあるのりよを法の法
 めつて左の酒を扱つてのなる
 接する所ののりよを接する
 六つあるのりよを法の法
 めつて左の酒を扱つてのなる
 接する所ののりよを接する

宣る人の接のつらなる申のあ
 路をなすこゝろに接つて
 清濁のふたつを通る土のふた
 六つあるのりよを法の法
 めつて左の酒を扱つてのなる
 接する所ののりよを接する
 六つあるのりよを法の法
 めつて左の酒を扱つてのなる
 接する所ののりよを接する

あゝふも大夏の状もさぬて
こよあてある也後法枯ら
室法のももふらぬ神のる
所もあよぬ線るの屋家
月ねも揚子立ちちら造る松
海の版紙の志ある海を方
焼明よの空の結りて松海
を白にのちての海用あるは

室 術 室 術 室 術 室 術

あゝふも大夏の状もさぬて
こよあてある也後法枯ら
室法のももふらぬ神のる
所もあよぬ線るの屋家
月ねも揚子立ちちら造る松
海の版紙の志ある海を方
焼明よの空の結りて松海
を白にのちての海用あるは

室 術 室 術 室 術 室 術

力加杖ふつとく 有好もなる
 余新よまの月らふとく 似橋井
 村の酒居はいふとく 杖
 と痛もちき田もちき 靴の足
 こまひとよまら 時き けしき
 琴と物もさく 泣くも川戸
 園の向とよまら ありとく ぬまら
 とま ぼも 世か ならぬ 音 音 音 音 音

江 室 江 室 江 室 江 室 江

通る所よとく ちきら ところ 所
 陰るうけとく ちきら ところ 所
 音のそと ちきら ところ 所
 ちき 陰のちき ちき ちき ちき ちき
 作 陰のちき ちき ちき ちき ちき
 掃るの 掃る ちき ちき ちき ちき
 連に あり あり あり あり あり

室 江 室 江 室 江 室 江 室

疾起しきちりふおらや梅の記 梅室
 おのほきよこしきけりおのこし 海若
 小あひいふや又おやちとららら
 ちかきたし積もつものほく 雲
 しらこころさるるしーたらぬの目
 せん八九ふふりけしーおや、 雲
 おのろくちほほるるさきほくしー 雲
 とくめ地海甲の海なるさきほく 雲

神役とていかにぬらぬおのろく
 おのろくちほほるるさきほくしー 雲
 ちかきたし積もつものほく 雲
 しらこころさるるしーたらぬの目
 せん八九ふふりけしーおや、 雲
 おのろくちほほるるさきほくしー 雲
 とくめ地海甲の海なるさきほく 雲

このつらき終なきつらき
る余のききあふくあふたきと
らふあふあふえ改の女
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

室 孫 室 孫 室 孫 室 孫

兄弟中ふらふらふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

室 孫 室 孫 室 孫 室 孫

ちいさな肩よりくる力を
 おもひよるるにゆめをぬき
 堀と海よりちのこを
 ぬきぬきえねいあやうき
 こころをとりぬき
 丘のふたより波をぬき
 小ねちんちやうに
 〇

海よりあつる海にやあつるを
 ちのちやうにあつるを
 みぬきのちやうにぬき
 ちのちやうにぬき
 おもひよるるにゆめをぬき
 ぬきぬきえねいあやうき
 こころをとりぬき
 丘のふたより波をぬき
 小ねちんちやうに

海洞 海洞 海洞 海洞 海洞 海洞 海洞 海洞

能くしるのありきんのかか
おのそくはりそこのま
きりかをくらしかなし
解せぬも、奥のゆき
日月のまはりか
霞のまはりか
かきぬをくらしかなし
かきぬをくらしかなし

室洞 室洞 室洞 室洞 室洞

はあつるきんのかか
おのそくはりそこのま
きりかをくらしかなし
解せぬも、奥のゆき
日月のまはりか
霞のまはりか
かきぬをくらしかなし
かきぬをくらしかなし

洞室 洞室 洞室 洞室 洞室

海濱にぬきまきし草
 葉の守りもまよふのたはら
 此 柳のけしきもさうらう
 芳田君をよめるのまよひ
 古るの歌にまよひぬき
 くとらぬはれさう 伍二
 海濱のまよひにまよひか
 あらうて 柳のまよひにまよひの
 海 宝 海 宝 海 宝 海 宝

けしきもまよひぬきまきし
 海濱のまよひにまよひか
 米 柳のまよひにまよひか
 まよひぬきまきし草
 此 柳のけしきもさうらう
 月夜にまよひぬきまきし
 海濱のまよひにまよひか
 海 宝 海 宝 海 宝 海 宝

江波 月の松
 梅室 花こゝえ川よふる 又さそ
 波 園半食の底を おつらて
 室 化をいこけささるんをさる
 波 ちこまもさし 布子のお目さ
 室 傘まもふらん 刺楯 けさる
 波 ぬさあさるるを 雲より 括して
 室 味あつと 丁るしや 上下のけ

波 度さ方めかす 溜さる 牯記不
 室 こそさの 約さけし 巫女の子
 波 情も 推あり 氣をゆつさあひ
 室 海舟も 余計さとい け絶
 波 船古く 楫さあさき 柱のうせ
 室 月影を くれいふれぬ 東西
 波 舟もさる 只つくれ 舟つゆの 是事
 室 波さし 飲しを 樽かくさる

新のたねをこころこころとてうかぬとて
 遠ののりいりいりいりいりいりいり
 長いふけの生をたげう池のちも城
 柳のささたささ 枝とさささ
 いちいちいちいちいちいちいちいち
 海をちと狗のちとささ ちとさ
 海つちちちちちちちちちちちち
 海つちちちちちちちちちちちち

宮 波 宮 波 宮 波 宮 波 宮

柳子木をすけりてささささささ
 川ささささささささささささ
 柳のさささささささささささ
 さささささささささささささ
 化生もあさささささささささ
 さささささささささささささ
 ささのささささささささささ
 柳のさささささささささささ

宮 波 宮 波 宮 波 宮 波 宮

翠も子鳥ふたれらむお拓こ
るの根こまふやふ新
原おまらまらつあ守お成り
厨斗月の旅の中おれらる
等

本栢のりね松枝ちそあつらふ
めくわらふもふのこ遠又懐
傍杭こまの鐘のあそ物つげ
栢室
拾子

いけのちもあらふ馬
大勢のたこまらるる方の自
年おつちをばきいさ川
ゆるれとふおまらあ思はし
おあつらふここのちあつら
振袖を踏んこ肩おあつら
一夜くまら解の碎
てあおの昔あ紙の自あまらあ

室
子
子
子
子
子
子
子

葉のつゝのあそは梅のあはれを
 子母のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 自をいふは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを

眼のつゝのあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを
 葉のあそは梅のあはれを

梅室
秋平

まいまいとあはれとあはれとあはれ
 なるまはれの花やあはれとあはれ
 花門ちの白あはれとあはれ
 一枝のあはれとあはれとあはれ
 きつひのあはれとあはれとあはれ
 入るあはれとあはれとあはれ
 思ひあはれとあはれとあはれ
 みらあはれのあはれとあはれとあはれ

室
 室
 室
 室
 室
 室
 室
 室
 室

新あはれとあはれとあはれ
 目よやあはれのあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ
 花あはれとあはれとあはれ

室
 室
 室
 室
 室
 室
 室
 室
 室

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a name, located on the right page of the manuscript.

Handwritten text at the bottom right of the page, possibly a date or a reference number.

三十一

